

Ⅲ 調査の結果

Ⅲ 調査の結果について

(グラフ中の N、n は回答者数です)

１ 男女平等に関する意識について

１－１ 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問１ 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方を、どのように思いますか。

(回答は１つ)

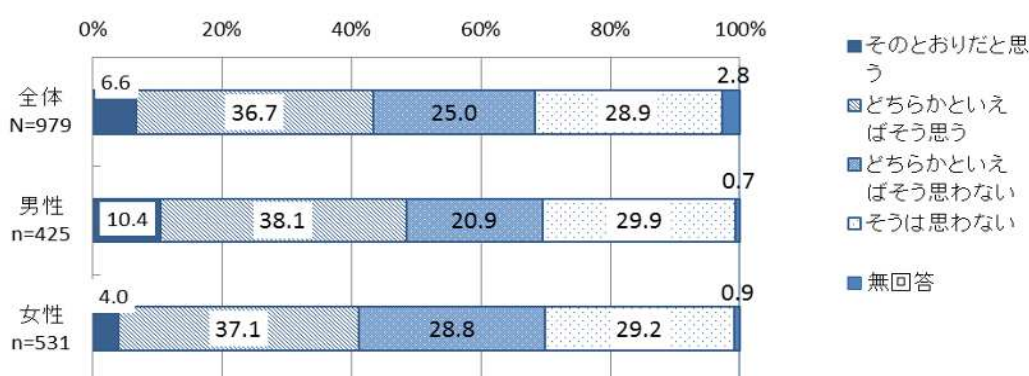
(人：％)

	全 体		男 性		女 性	
	人 数	構成比	人 数	構成比	人 数	構成比
１ そのとおりだと思う	40	4.3	32	7.5	8	1.6
２ どちらかといえばそう思う	266	28.3	132	31.0	131	26.0
３ どちらかといえばそう思わない	263	28.0	99	23.2	164	32.5
４ そうは思わない	359	38.2	159	37.3	195	38.7
無回答	11	1.2	4	1.0	6	1.2
合 計	939	100.0	426	100.0	504	100.0

平成 27 年調査全体・男女別



平成 22 年調査全体・男女別



「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担意識については、「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定派が 32.6%であるのに対し、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた否定派が 66.2%と上回っています。平成 22 年調査では肯定派が 43.3%、否定派が 53.9%であったことと比較すると、否定派が増加の傾向にあります。

男女別にみると、男性は肯定派が 38.5%、否定派が 60.5%、女性は肯定派が 27.6%、否定派が 71.2%とどちらも否定派が肯定派を上回っています。平成 22 年調査では、男性の肯定派が 48.5%、否定派が 50.8%、女性の肯定派が 41.1%、否定派が 58.0%であったことと比較すると平成 22 年調査と比べ、男女とも否定派が増加している傾向があります。

Ⅲ－１ 男女平等に関する意識

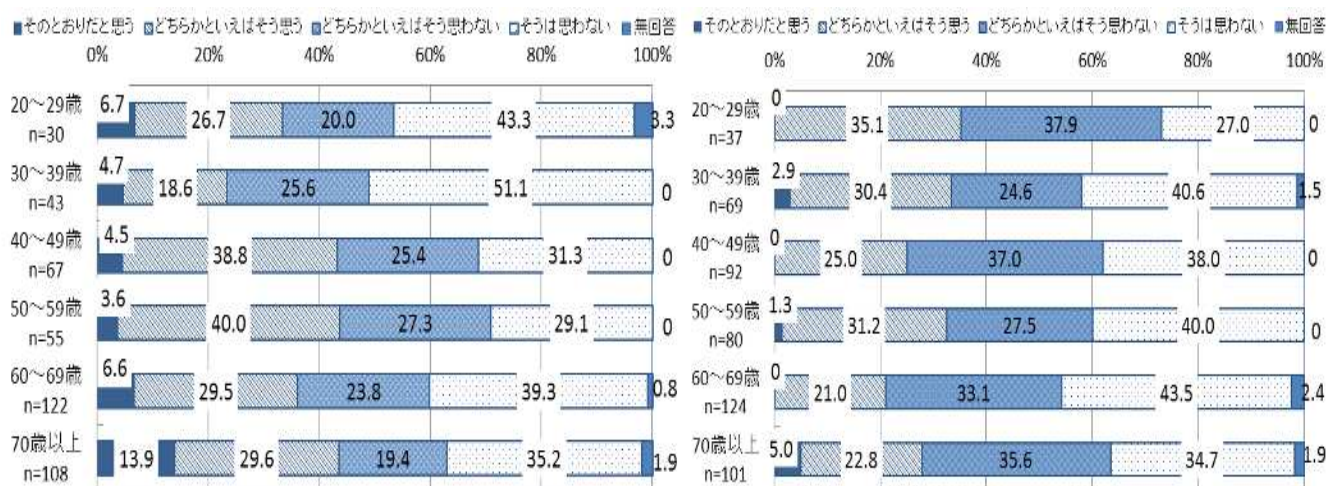
男女別・年齢別

(人：％)

		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性	1 そのとおりだと思う	2	6.7	2	4.7	3	4.5	2	3.6	8	6.6	15	13.9
	2 どちらかといえばそう思う	8	26.7	8	18.6	26	38.8	22	40.0	36	29.5	32	29.6
	3 どちらかといえばそう思わない	6	20.0	11	25.6	17	25.4	15	27.3	29	23.8	21	19.4
	4 そうは思わない	13	43.3	22	51.1	21	31.3	16	29.1	48	39.3	38	35.2
	無回答	1	3.3	0	0	0	0	0	0	1	0.8	2	1.9
	合 計	30	100.0	43	100.0	67	100.0	55	100.0	122	100.0	108	100.0
女性	1 そのとおりだと思う	0	0	2	2.9	0	0	1	1.3	0	0	5	5.0
	2 どちらかといえばそう思う	13	35.1	21	30.4	23	25.0	25	31.2	26	21.0	23	22.8
	3 どちらかといえばそう思わない	14	37.9	17	24.6	34	37.0	22	27.5	41	33.1	36	35.6
	4 そうは思わない	10	27.0	28	40.6	35	38.0	32	40.0	54	43.5	35	34.7
	無回答	0	0	1	1.5	0	0	0	0	3	2.4	2	1.9
	合 計	37	100.0	69	100.0	92	100.0	80	100.0	124	100	101	100.0

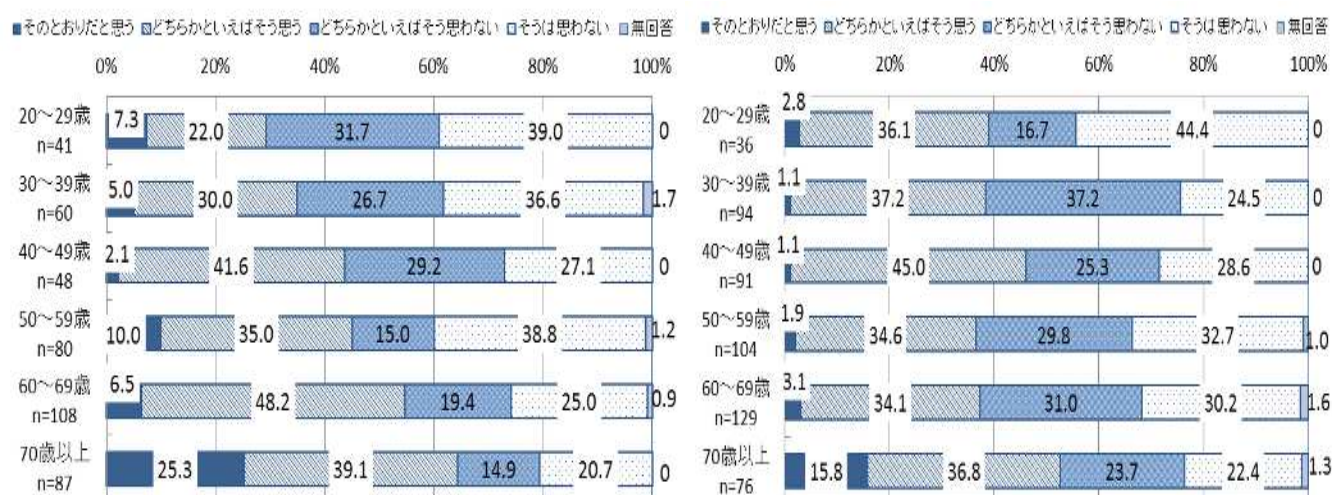
平成 27 年調査男性・年齢別

平成 27 年調査女性・年齢別



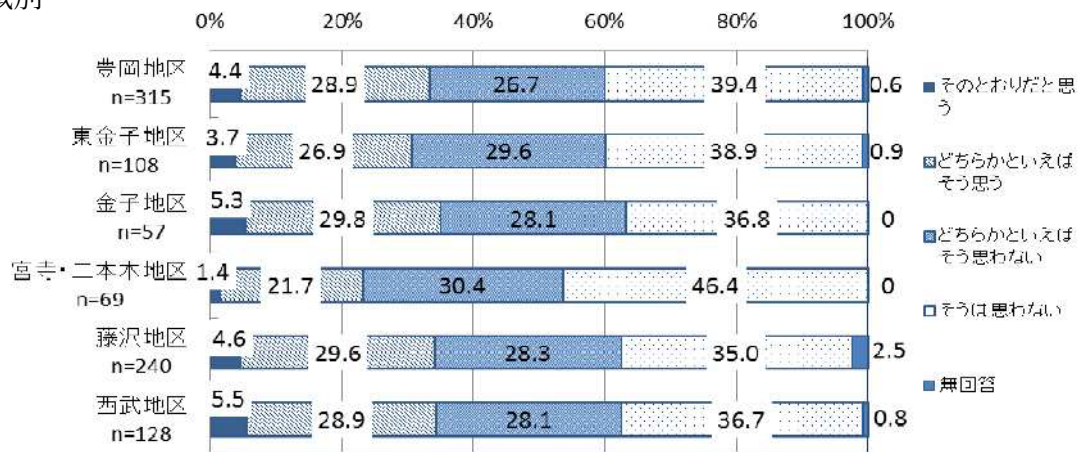
平成 22 年調査男性・年齢別

平成 22 年調査女性・年齢別



男女年齢別でみると、男女とも肯定派、否定派にばらつきがありますが、肯定派より否定派の割合が高くなっています。肯定派の割合が最も高いのが、男性 50 歳代で 43.6%、女性 20 歳代で 35.1%となっています。平成 22 年調査と比べると、男女ともに全ての年代で肯定派が減少しています。特に男性の 60 歳以上と女性の 40 歳代、60 歳以上の減少が大きくみられます。

地域別



全ての地域で否定派が肯定派を上回っています。肯定派が多いのは金子地区で 35.1%、次いで、藤沢地区 34.4%、西武地区 34.2%と続いています。「そのとおりだと思う」という強い肯定派が西武地区 5.5%で一番多い結果となりました。

1-2 男女の地位の平等感について

問２ 次にあげる分野で男女の地位はどうなっていると思いますか。

(回答は、アからキのそれぞれの項目ごとに 1 つ)

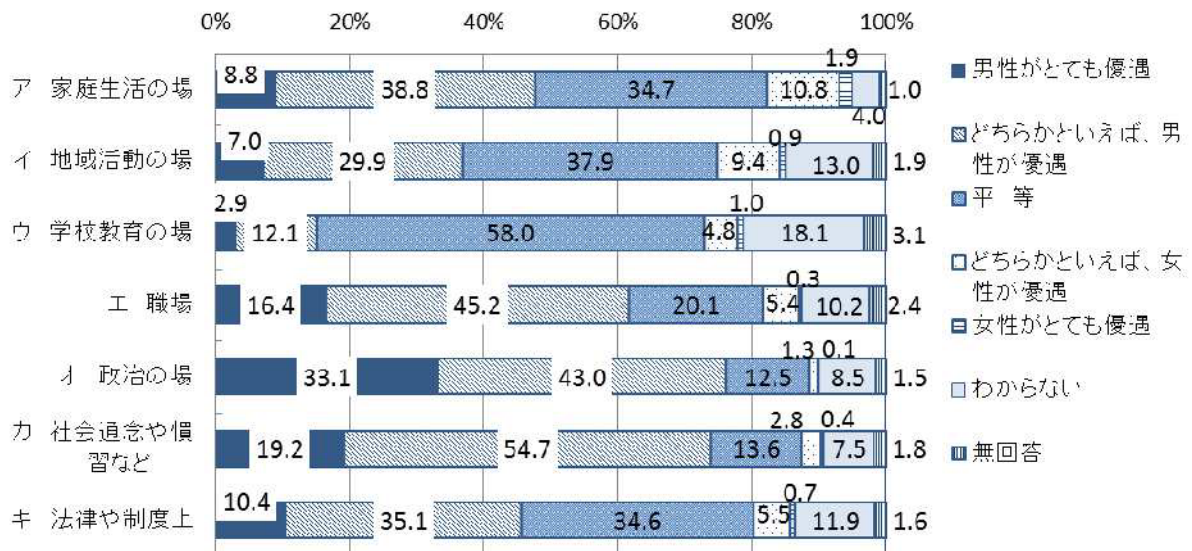
(人：%)

項目	性別	男性の方がとても優遇されている		どちらかといえば、男性の方が優遇されている		平等		どちらかといえば、女性の方が優遇されている		女性の方がとても優遇されている		わからない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ア家庭生活の場	全体	83	8.8	364	38.8	326	34.7	101	10.8	18	1.9	38	4.0	9	1.0
	男性	21	4.9	147	34.5	185	43.4	51	12.1	8	1.9	11	2.6	3	0.7
	女性	61	12.1	214	42.5	138	27.4	49	9.7	9	1.8	27	5.4	6	1.2
イ地域活動の場	全体	66	7.0	281	29.9	356	37.9	88	9.4	8	0.9	122	13.0	18	1.9
	男性	25	5.9	110	25.8	182	42.7	50	11.7	4	0.9	51	11.7	4	0.9
	女性	40	7.9	169	33.5	170	33.7	37	7.3	3	0.6	71	14.1	14	2.8
ウ学校教育の場	全体	27	2.9	114	12.1	545	58.0	45	4.8	9	1.0	170	18.1	29	3.1
	男性	8	1.9	42	9.9	267	62.7	32	7.5	3	0.7	67	15.7	7	1.6
	女性	18	3.6	72	14.3	272	54.0	12	2.4	5	1.0	103	20.4	22	4.4
エ職場	全体	154	16.4	424	45.2	189	20.1	51	5.4	3	0.3	96	10.2	22	2.4
	男性	53	12.4	201	47.2	92	21.6	39	9.2	2	0.5	33	7.7	6	1.4
	女性	98	19.4	221	43.8	94	18.7	12	2.4	1	0.2	62	12.3	16	3.2
オ政治の場	全体	311	33.1	404	43.0	117	12.5	12	1.3	1	0.1	80	8.5	14	1.5
	男性	107	25.1	200	46.9	78	18.3	9	2.1	0	0	27	6.3	5	1.2
	女性	202	40.1	201	39.9	37	7.3	3	0.6	1	0.2	51	10.1	9	1.8
カ社会通念や慣習など	全体	180	19.2	514	54.7	128	13.6	26	2.8	4	0.4	70	7.5	17	1.8
	男性	59	13.8	248	58.2	71	16.7	18	4.2	2	0.5	23	5.4	5	1.2
	女性	119	23.6	263	52.2	54	10.7	8	1.6	2	0.4	46	9.1	12	2.4
キ法律や制度上	全体	98	10.4	330	35.1	325	34.6	52	5.5	7	0.7	112	11.9	15	1.6
	男性	24	5.6	128	30.0	202	47.4	32	7.5	4	0.9	34	8.0	2	0.5
	女性	73	14.5	198	39.3	121	24.0	20	4.0	3	0.6	76	15.1	13	2.6

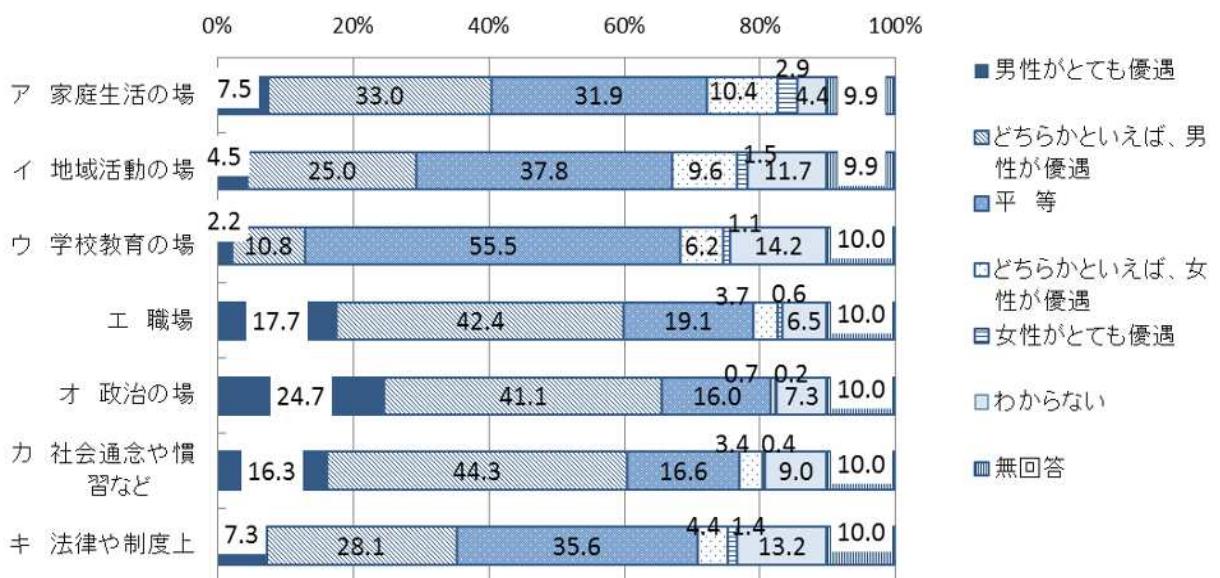
(全体 N = 939 男性 n = 426 女性 n = 504)

Ⅲ－１ 男女平等に関する意識

平成 27 年調査全体



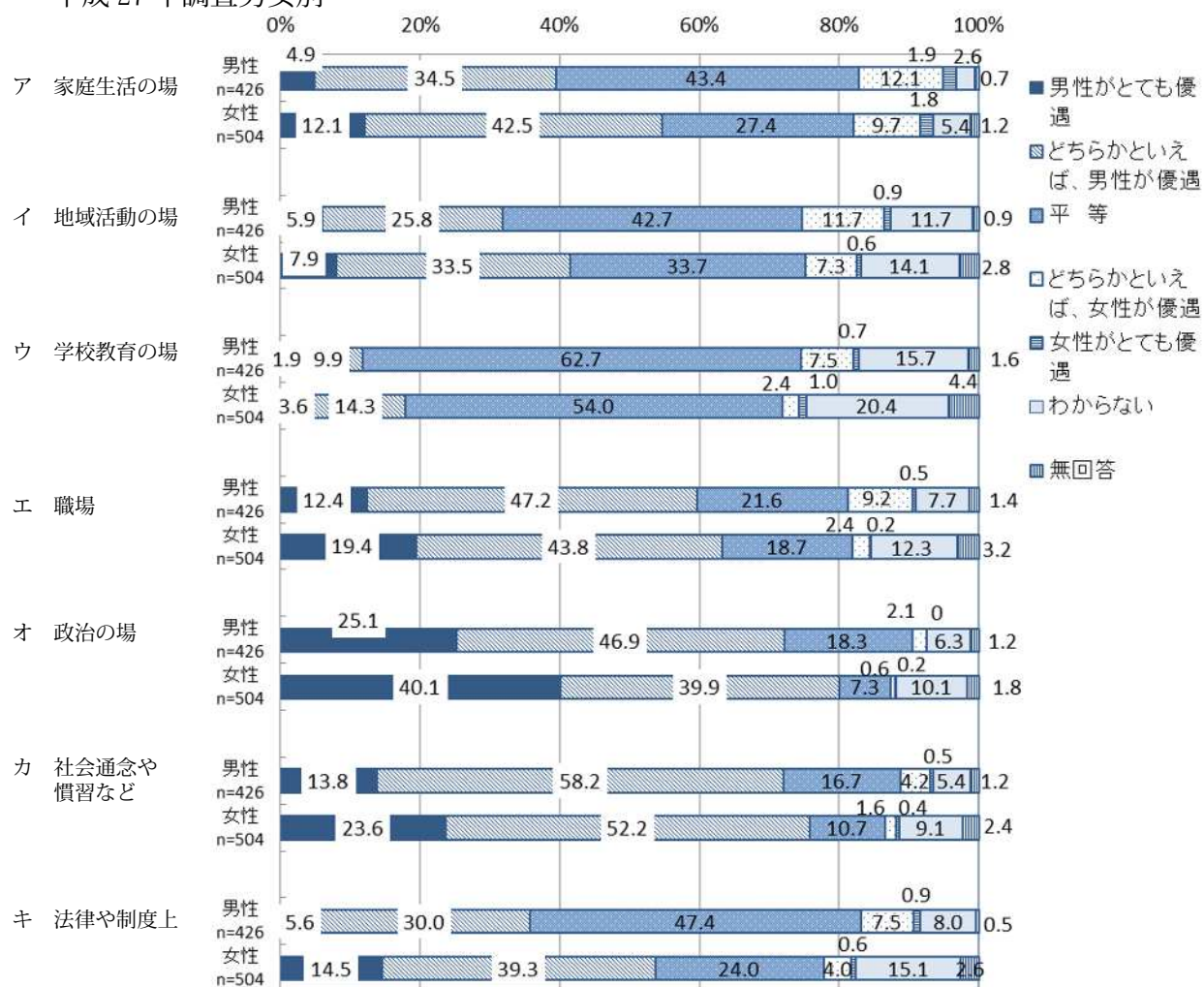
平成 22 年調査全体



7つの項目のうち、「平等」とした割合が最も高いのは「学校教育の場」（58.0％）であり、過半数が平等と感じています。次いで「地域活動の場」（37.9％）「法律や制度上」（34.6％）の順です。「政治の場」（12.5％）、「社会通念や慣習など」（13.6％）は、平等と感じている人の割合が低くなっています。

平成 22 年調査との比較では、「平等」とした割合は、「法律や制度上」で 35.6％から 34.6％、「社会通念や慣習など」で 16.6％から 13.6％、「政治の場」16.0％から 12.5％に減少しているものの、他の項目では、いずれも平成 27 年度の割合が平成 22 年度の割合を上回っています。

平成 27 年調査男女別

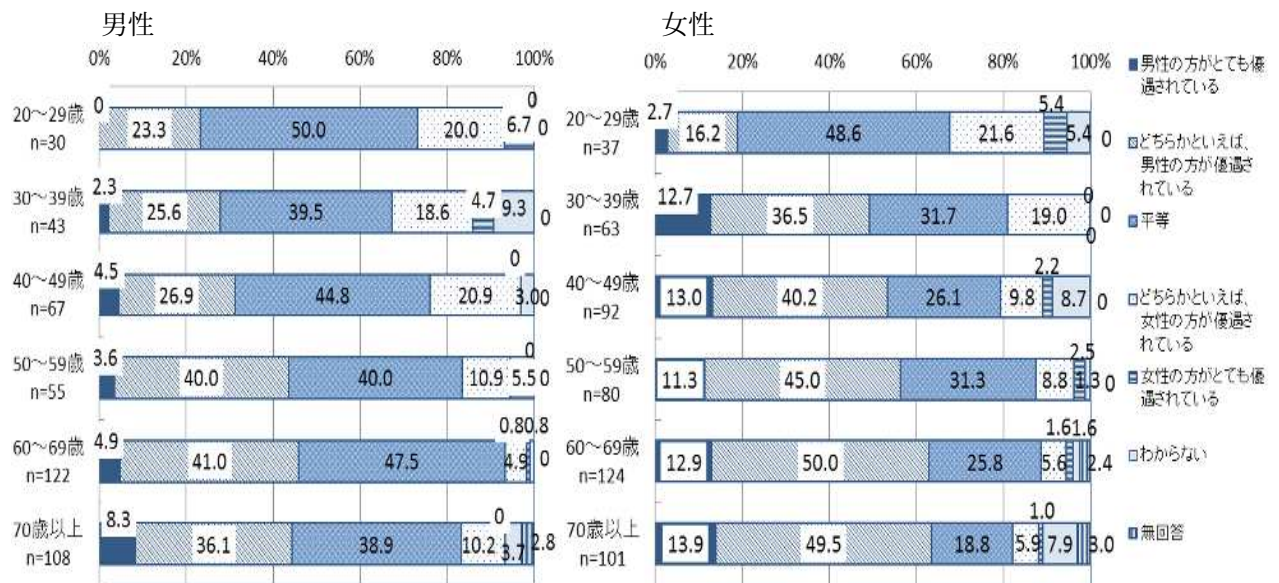


男女ともに「平等」とした割合がもっとも高い項目は「学校教育の場」であり 5 割を超えています。「平等」とした割合が最も低い項目は、男性では「社会通念や慣習など」、女性では「政治の場」となりました。

全ての項目で、「平等」とした割合は、女性が男性を下回っています。その分女性は「男性の方がとても優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする割合が高く、女性には男性が優遇されているとの意識が強くなっています。特に「家庭生活の場」、「政治の場」、「法律や制度上」では、「平等」と感じている女性の割合は、平等と感じている男性の割合を大きく下回っています。

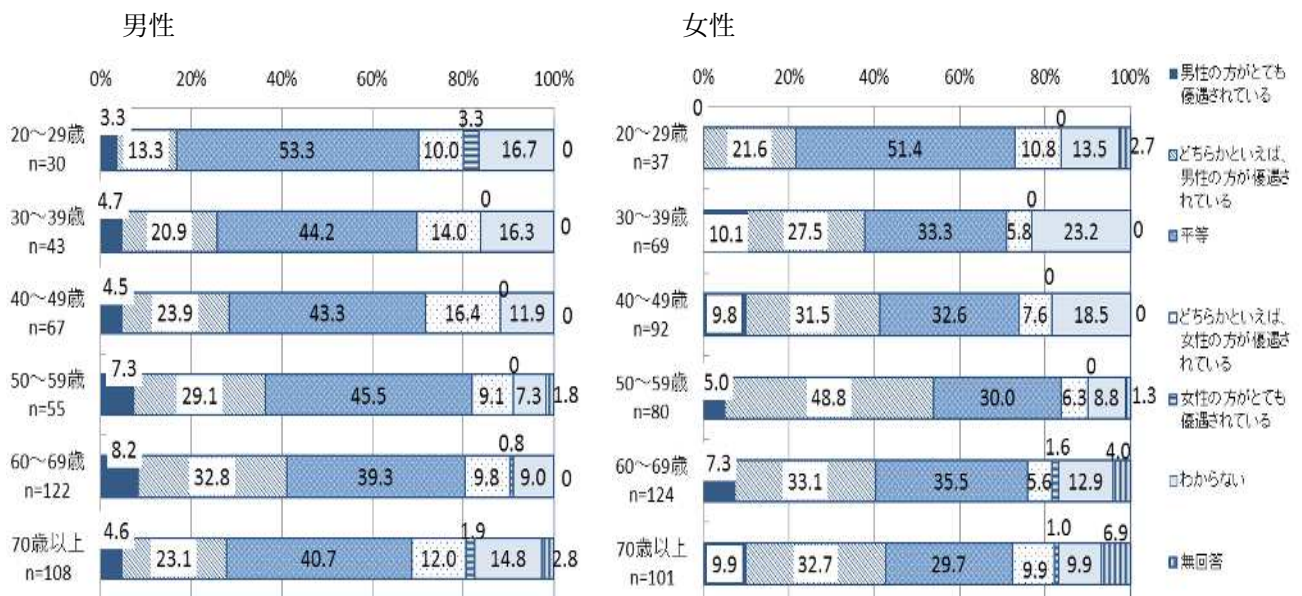
Ⅲ－１ 男女平等に関する意識

ア 家庭生活の場〈男女別・年齢別〉



男女別・年齢別にみると、どの年齢層においても「平等」とした割合は女性より男性が上回っています。男性では若年層ほど「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、「女性の方がとても優遇されている」とした割合が高く、年齢が高くなるに従い、逆に「どちらかといえば男性の方が優遇」、「男性の方がとても優遇されている」を合わせた割合が増える傾向にあります。女性では、20歳代を除く年齢層において「どちらかといえば男性の方が優遇」「男性の方がとても優遇されている」とした割合が男性に比べ高い傾向にあります。

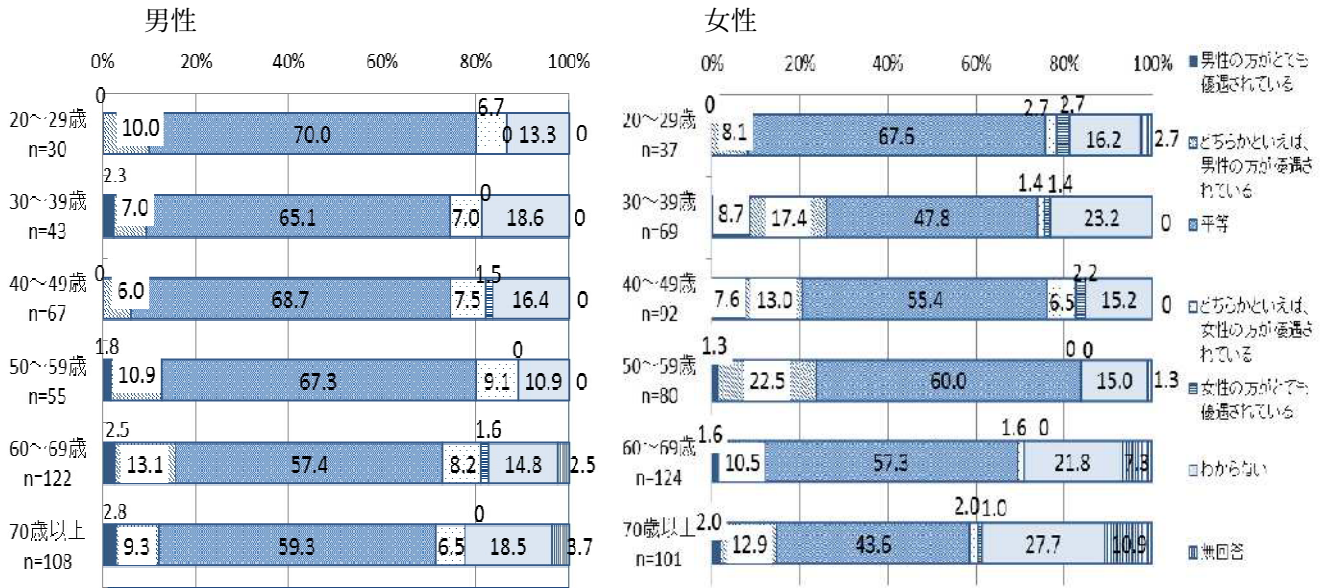
イ 地域活動の場〈男女別・年齢別〉



男女別・年齢別にみると、どの年齢層でも「平等」とした割合は女性よりも男性が上回っています。

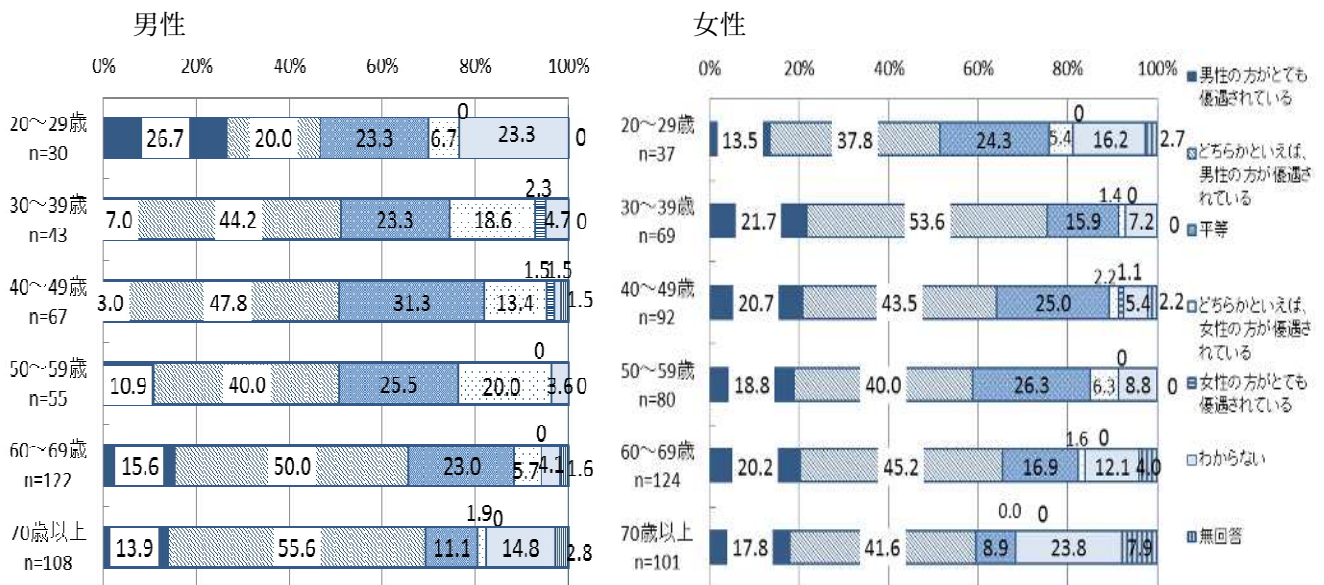
男性は60歳代、女性は50歳代が、「どちらかといえば男性の方が優遇」「男性の方がとても優遇されている」を合わせた割合が高くなっています。

ウ 学校教育の場〈男女別・年齢別〉



男女別・年齢別にみると、女性 30 歳代と 70 歳以上を除く、他の年齢層において「平等」とした割合が 5 割を超えています。女性の 30 歳代から 50 歳代で「男性の方がとても優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が 20%を超えています。

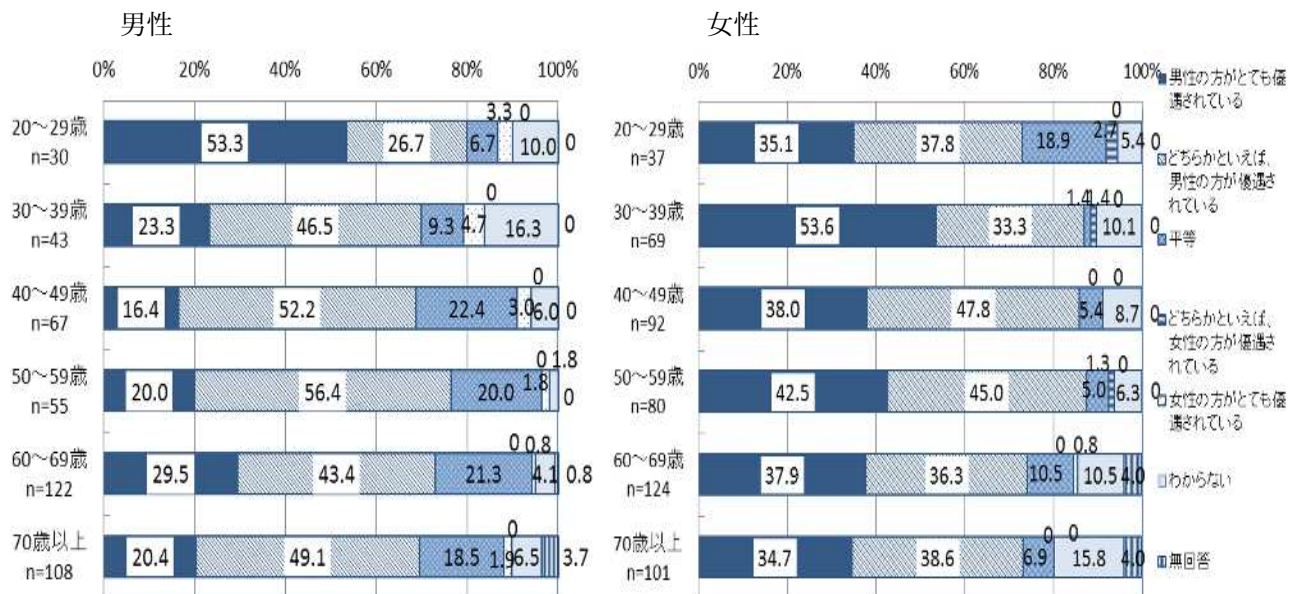
エ 職場〈男女別・年齢別〉



男女別・年齢別にみると、男女とも全ての年齢層で「男性の方がとても優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が高く 5 割を超えています。男性では 20 歳代で「男性の方がとても優遇されている」(26.7%) とした割合が最も高く、女性は 30 歳代で「男性の方がとても優遇されている」(21.7%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(53.6%) とした割合が最も高くなっています。

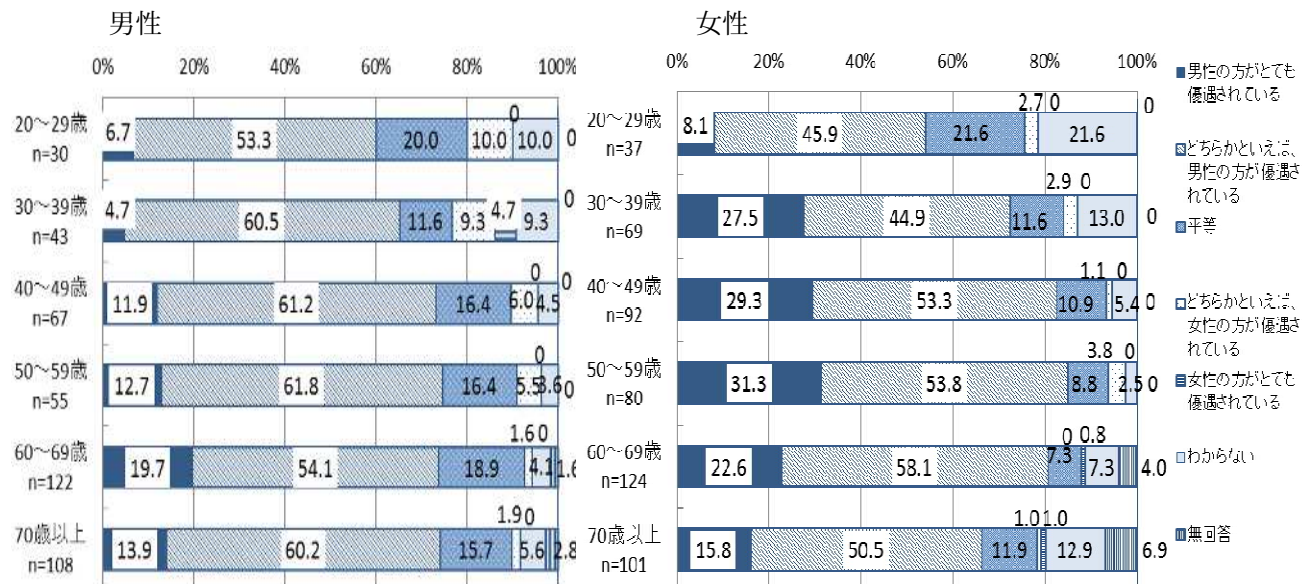
Ⅲ－１ 男女平等に関する意識

オ 政治の場〈男女別・年齢別〉



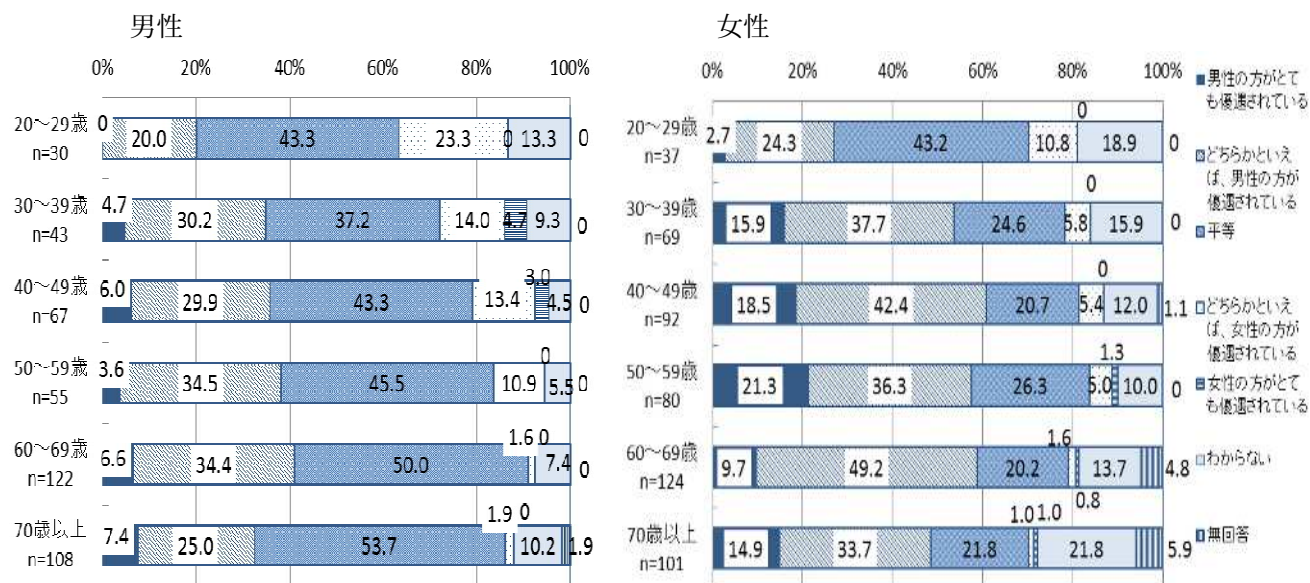
男女別・年齢別にみると、男女すべての年齢層で、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」を合わせた割合が 5 割を超えています。特に、女性においては、「男性の方が優遇されている」とした割合が 30 歳代 53.6%でもっとも高く、次いで 50 歳代 42.5%、40 歳代 38.0%となっており、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」を合わせた割合は 8 割を超えています。

カ 社会通念や慣習など〈男女別・年齢別〉



男女別・年齢別にみると、男女すべての年齢層で、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」を合わせた割合が高くなっています。男女とも 20 歳代は「平等」とした割合が他の年齢層に比べて高くなっています。女性においては、20 歳代、30 歳代を除いた年齢層で「平等」とした割合が男性より低くなっています。

キ 法律や制度上〈男女別・年齢別〉



男女別・年齢別にみると、全ての年齢層で「平等」とした割合が男性の方が女性より高くなっており、男性 60 歳代以上は「平等」とした割合が 5 割を超えています。20 歳代では男女とも「平等」とした割合が、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」を合わせた割合より高くなっています。

また 20 歳代男性で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とした割合が 23.3%と最も高くなっています。

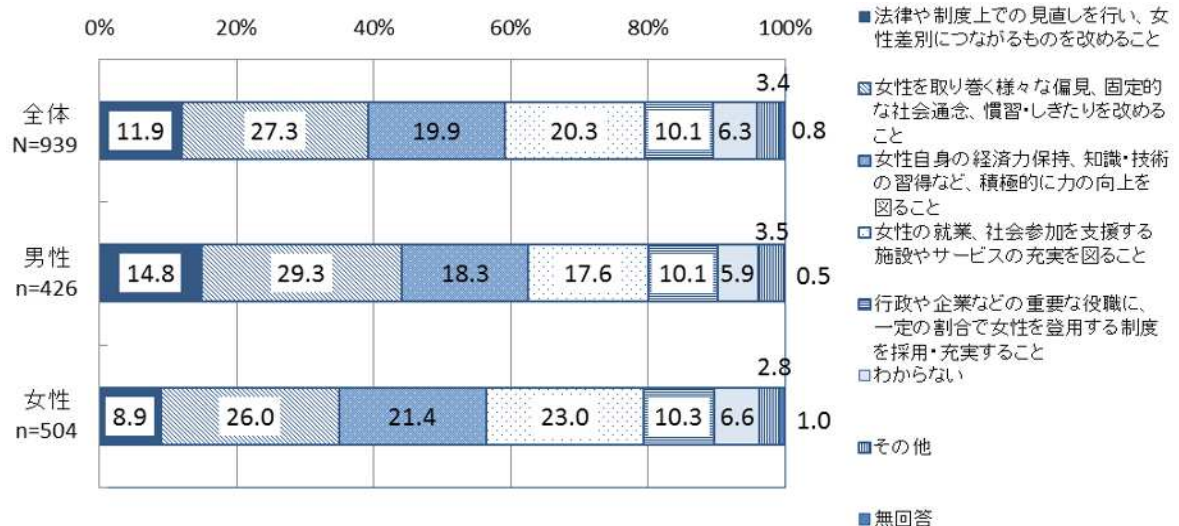
1-3 あらゆる分野で平等になるために重要なことについて

問3 今後、男女が社会のあらゆる分野で更に平等になるために、最も重要だと思うことは何ですか。（回答は1つ）（人：％）

	全体		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 法律や制度上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること	112	11.9	63	14.8	45	8.9
2 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	256	27.3	125	29.3	131	26.0
3 女性自身の経済力保持、知識・技術の習得など、積極的に力の向上を図ること	187	19.9	78	18.3	108	21.4
4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	191	20.3	75	17.6	116	23.0
5 行政や企業などの重要な役職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	95	10.1	43	10.1	52	10.3
6 わからない	59	6.3	25	5.9	33	6.5
7 その他	32	3.4	15	3.5	14	2.8
無回答	7	0.7	2	0.5	5	1.0
合 計	939	99.9	426	100	504	99.9

Ⅲ－１ 男女平等に関する意識

全体・男女別



全体では、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(27.3%)とした割合が最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(20.3%)、「女性自身の経済力保持、知識・技術の習得など、積極的に力の向上を図ること」(19.9%)、の順になっています。

男女で比較すると男女とも「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(男性 29.3%、女性 26.0%)とした割合が最も高くなっています。また、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」とした割合は男性(17.6%)より女性(23.0%)が大きく上回っています。

２ 家庭生活について

２－１ 家事等を誰が行っているのかについて

問４ あなたの家庭では次のことがらを、主にどなたが行っていますか。

(回答はアからオの項目ごとに１つ)

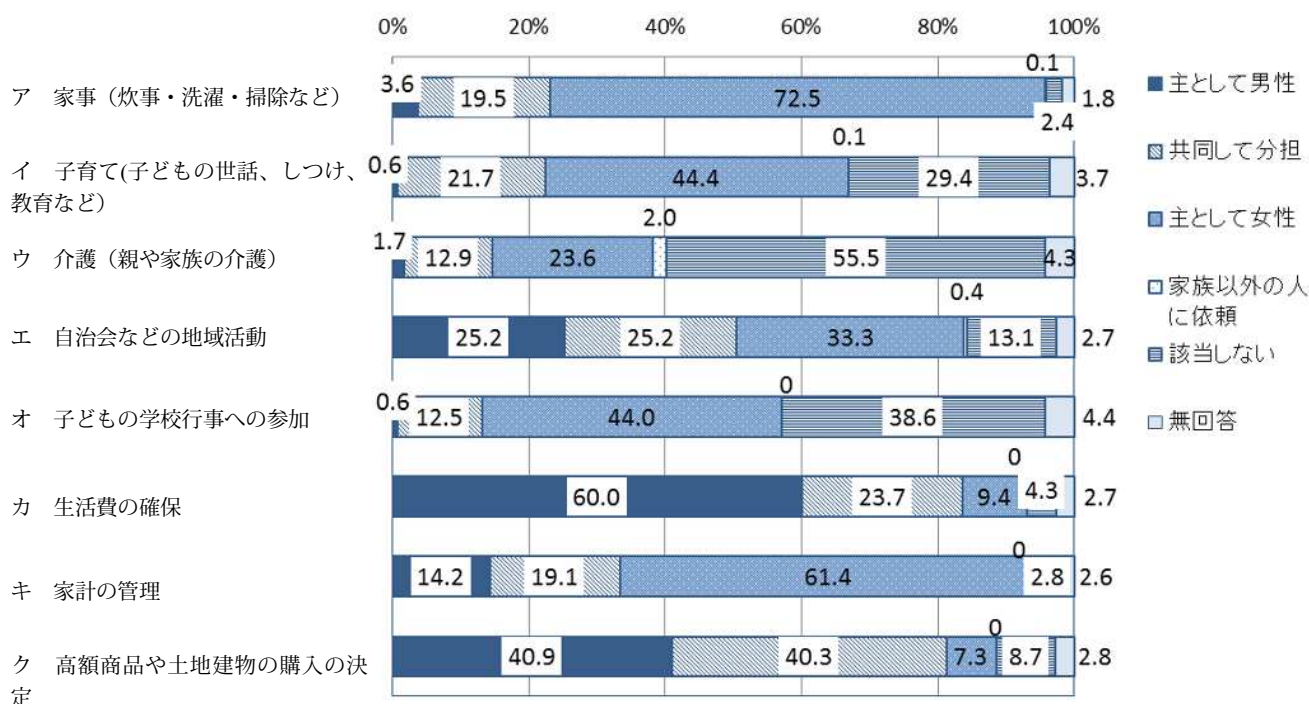
(人：％)

項 目	性別	主として男性		共同して分担		主として女性		家族以外の人に依頼		該当しない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ア 家事（炊事・洗濯・掃除など）	全体	34	3.6	183	19.5	681	72.5	1	0.1	23	2.4	17	1.8
	男性	33	7.7	93	21.8	282	66.2	1	0.2	12	2.8	5	1.2
	女性	1	0.2	88	17.5	393	78.0	0	0	11	2.2	11	2.2
イ 子育て(子どもの世話、しつけ、教育など)	全体	6	0.6	204	21.7	417	44.4	1	0.1	276	29.4	35	3.7
	男性	6	1.4	98	23.0	160	37.6	0	0	153	35.9	9	2.1
	女性	0	0	106	21.0	250	49.6	1	0.2	123	24.4	24	4.8
ウ 介護（親や家族の介護）	全体	16	1.7	121	12.9	222	23.6	19	2.0	521	55.5	40	4.3
	男性	13	3.1	60	14.1	68	16.0	8	1.9	265	62.2	12	2.8
	女性	3	0.6	60	11.9	153	30.4	11	2.2	251	49.8	26	5.2
エ 自治会などの地域活動	全体	237	25.2	237	25.2	313	33.3	4	0.4	123	13.1	25	2.7
	男性	139	32.6	101	23.7	115	27.0	2	0.5	64	15.0	5	1.2
	女性	97	19.2	134	26.6	194	38.5	2	0.4	58	11.5	19	3.8
オ 子どもの学校行事への参加	全体	6	0.6	117	12.5	413	44.0	0	0	362	38.6	41	4.4
	男性	6	1.4	64	15.0	151	35.4	0	0	193	45.3	12	2.8
	女性	0	0	53	10.5	256	50.8	0	0	168	33.3	27	5.4
カ 生活費の確保	全体	563	60.0	223	23.7	88	9.4	0	0	40	4.3	25	2.7
	男性	290	68.1	88	20.7	26	6.1	0	0	16	3.8	6	1.4
	女性	269	53.4	132	26.2	61	12.1	0	0	24	4.8	18	3.6
キ 家計の管理	全体	133	14.2	179	19.1	577	61.4	0	0	26	2.8	24	2.6
	男性	85	20.0	64	15.0	258	60.6	0	0	12	2.8	7	1.6
	女性	47	9.3	113	22.4	314	62.3	0	0	14	2.8	16	3.2
ク 高額商品や土地建物の購入の決定	全体	384	40.9	378	40.3	69	7.3	0	0	82	8.7	26	2.8
	男性	171	40.1	186	43.7	23	5.4	0	0	38	8.9	8	1.9
	女性	209	41.5	188	37.3	46	9.1	0	0	44	8.7	17	3.4

(全体N=939 男性n=426 女性n=504)

Ⅲ－２ 家庭生活

全体

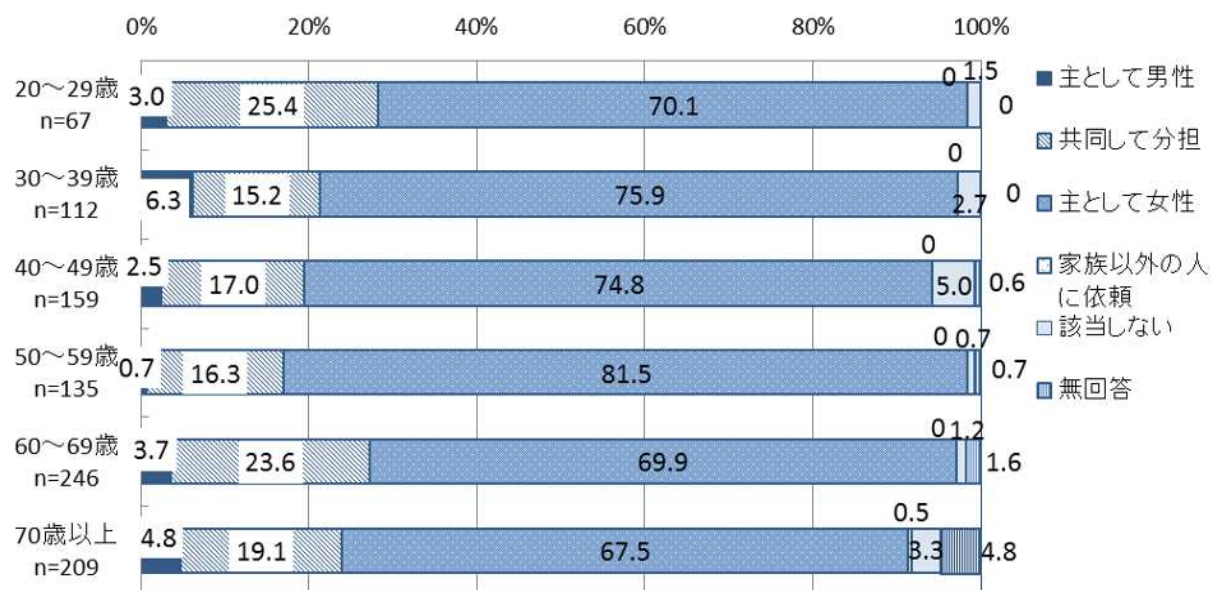


各項目で「主として女性」の割合が高くなっています。特に「家事（炊事・洗濯・掃除など）」は「主として女性の割合が70%を超えています。

「主として男性」の割合が最も高いのは、「生活費の確保」で60.0%を占めています。

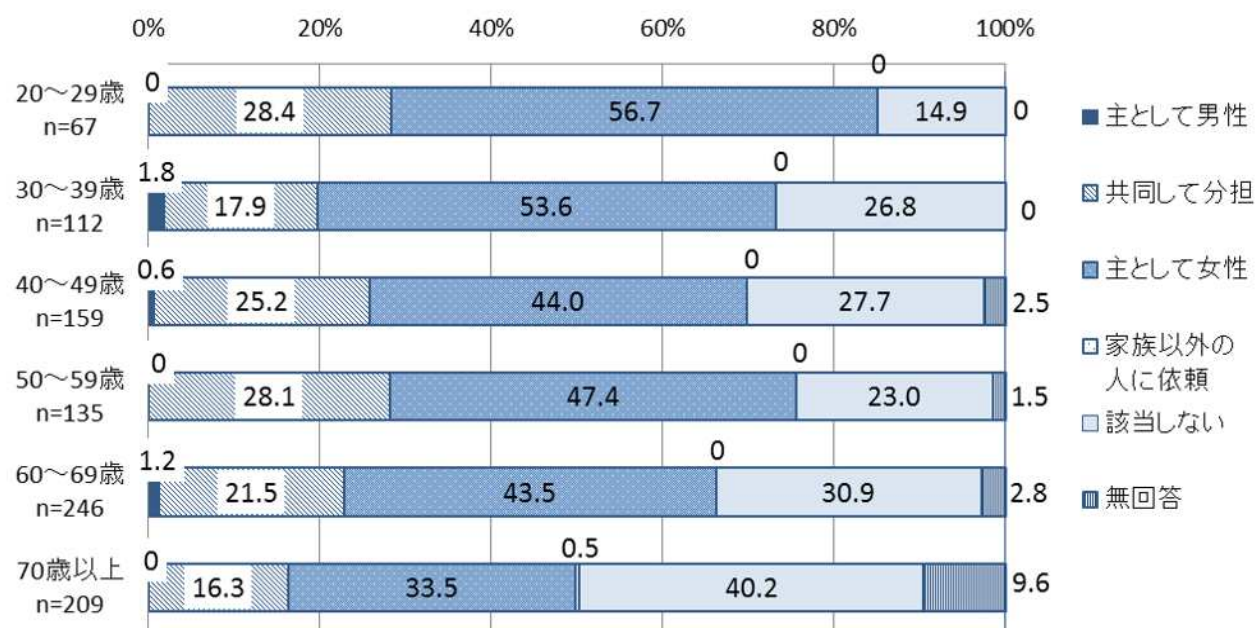
「共同して分担」の割合が最も高いのは、「高額商品や土地建物の購入の決定」40.3%ですが、「主として男性」も40.9%で高い割合となっています。

ア 家事（炊事・洗濯・掃除など）年齢別



「家事（炊事・選択・掃除など）」では、「主として女性」の割合が高くなっています。20歳代、60歳代で「共同して分担」の割合が高くなっています。

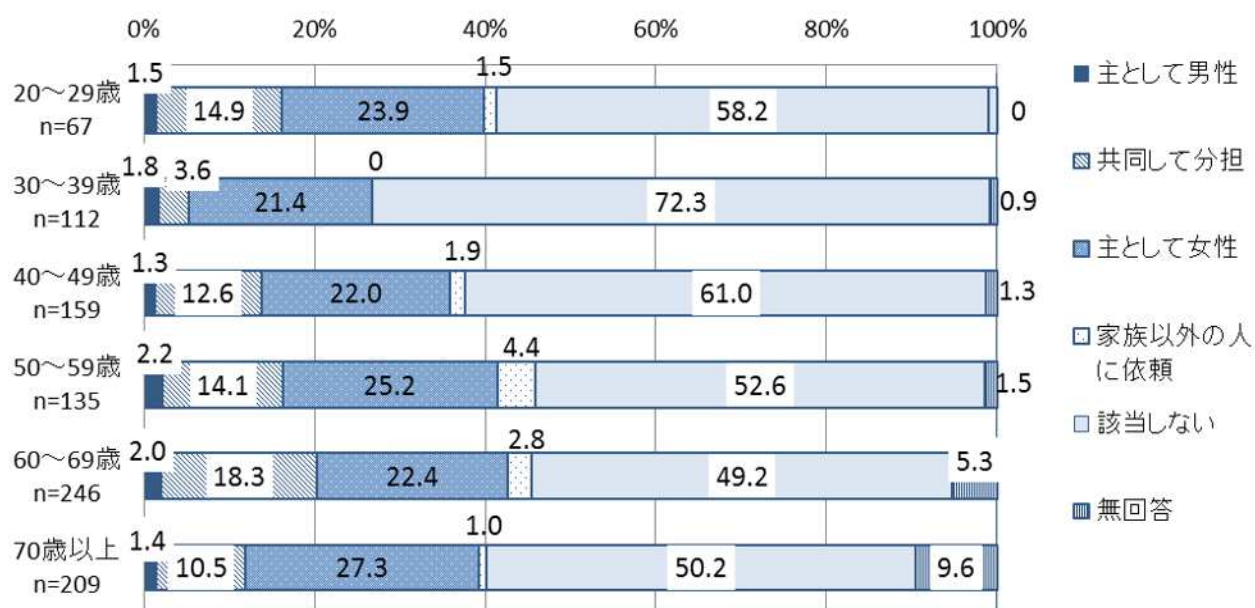
イ 子育て(子どもの世話、しつけ、教育など) 年齢別



「子育て(子どもの世話、しつけ、教育など)」では、「共同して分担」の割合が最も高いのは 20 歳代 (28.4%) であり、次いで 50 歳代 (28.1%)、40 歳代 (25.2%) の順になっています。

「主として女性」の割合が最も高いのは、20 歳代 (56.7%) であり、次いで 30 歳代 (53.6%)、50 歳代 (47.4%) の順になっています。

ウ 介護(親や家族の介護) 年齢別

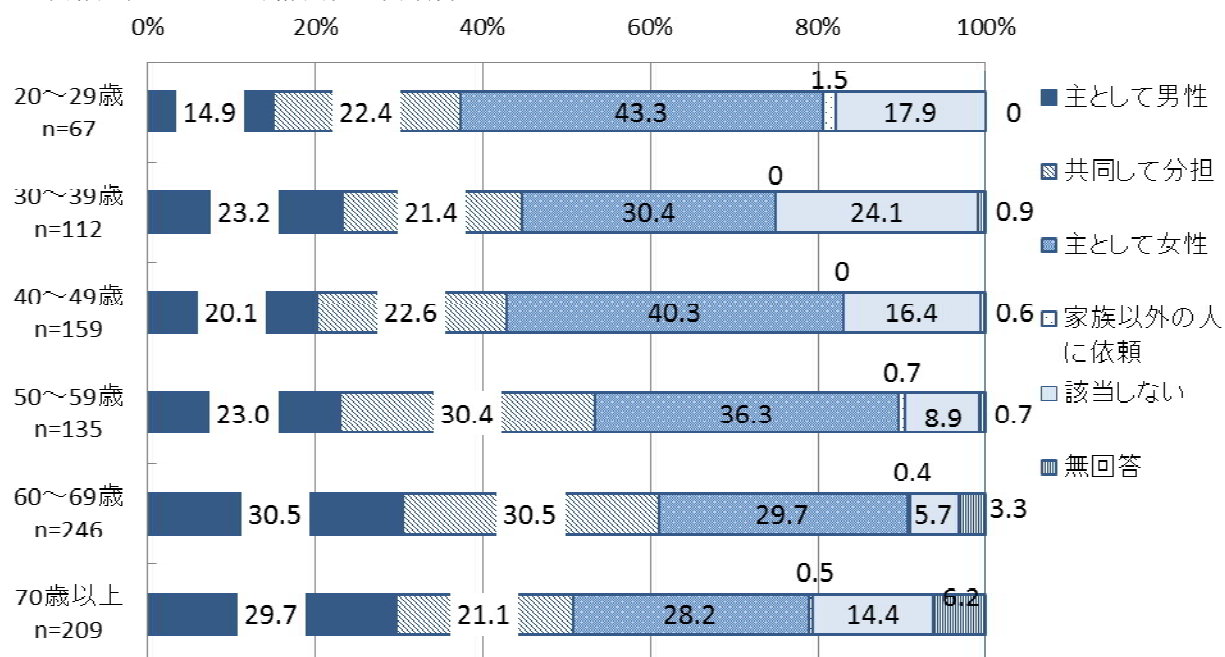


「介護(親や家族の介護)」ではばらつきはあるものの年代間の差はあまり見えません。

「主として女性」の割合が各年代で多く、「共同して分担」を上回っています。

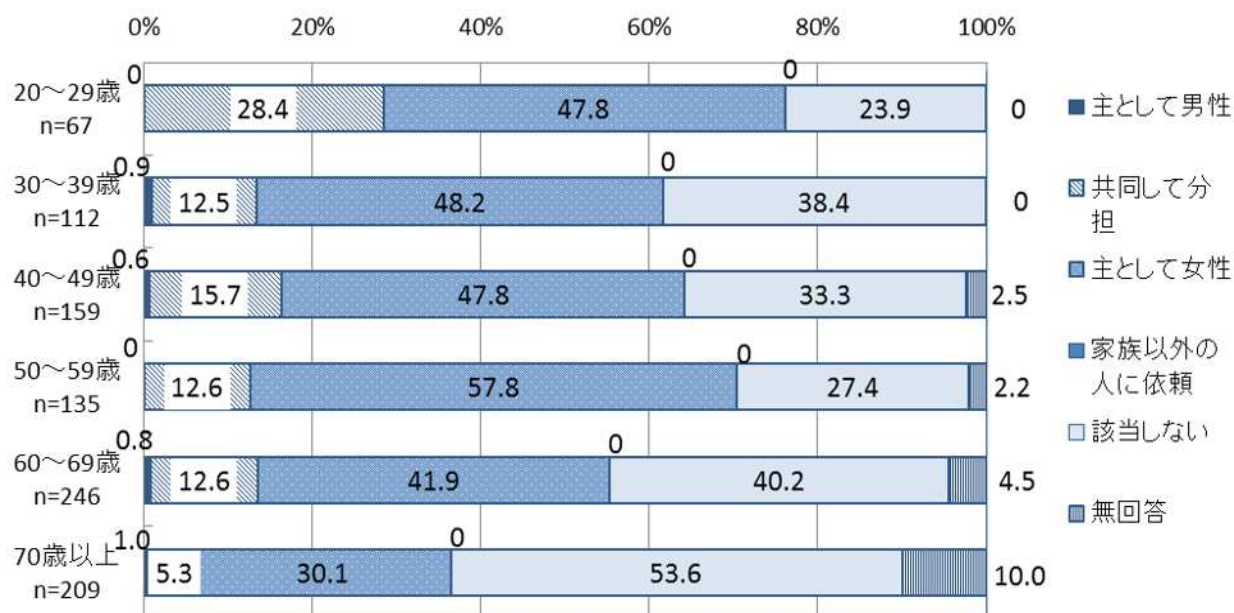
Ⅲ－２ 家庭生活

エ 自治会などの地域活動 年齢別



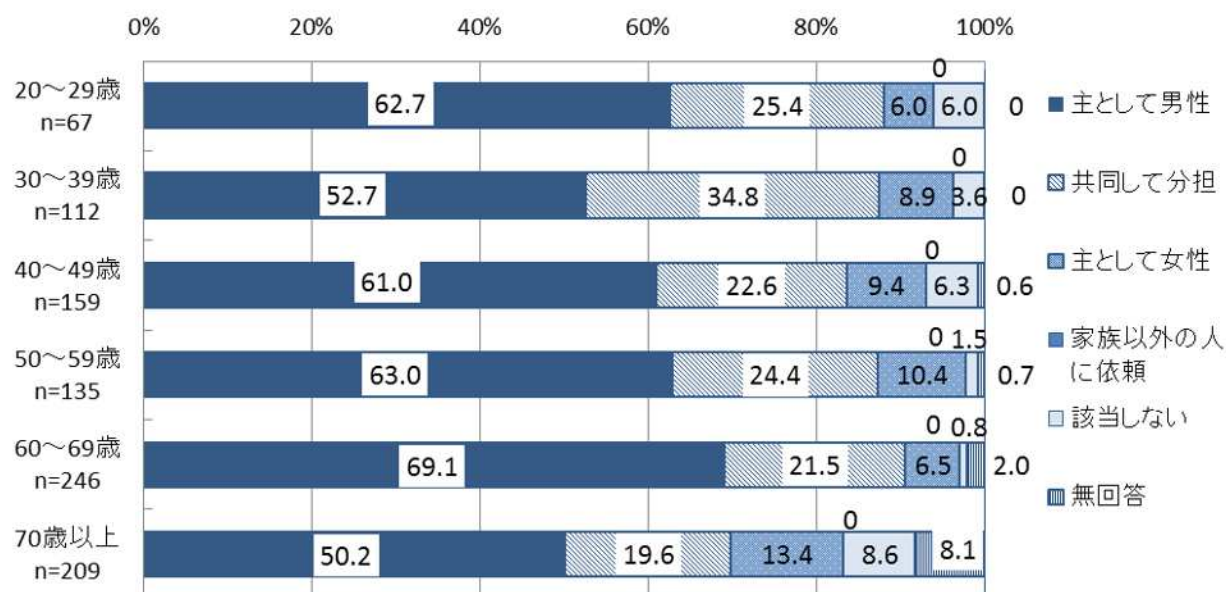
「自治会など地域活動」では、「共同して分担」の割合が高い傾向がありますが、60 歳代を除いて、「共同して分担」の割合よりも「主として女性」とした割合が高くなっています。

オ 子どもの学校行事への参加 年齢別



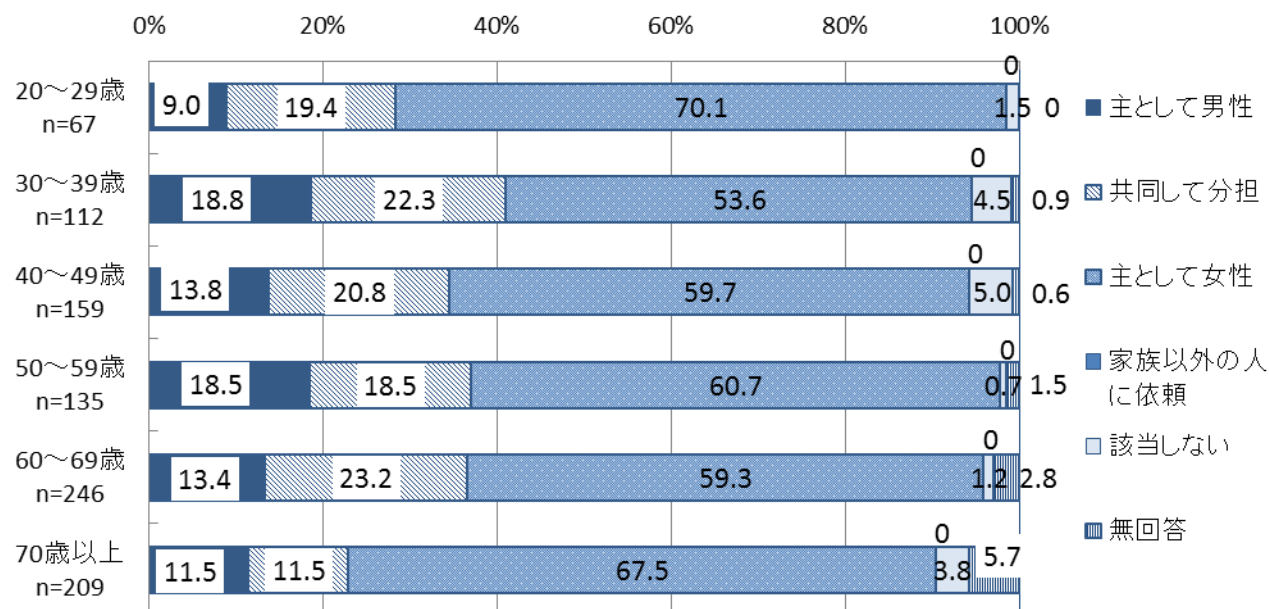
「子どもの学校行事への参加」では、50 歳代で「主として女性」とした割合が半数を超えています。20 歳代は、「主として女性」の割合が高いものの、「共同して分担」の割合も高くなっています。

カ 生活費の確保 年齢別



「生活費の確保」では、「主として男性」とした割合が全ての年齢層で半数を超えています。30歳代は、「共同して分担」の割合も高くなっています。

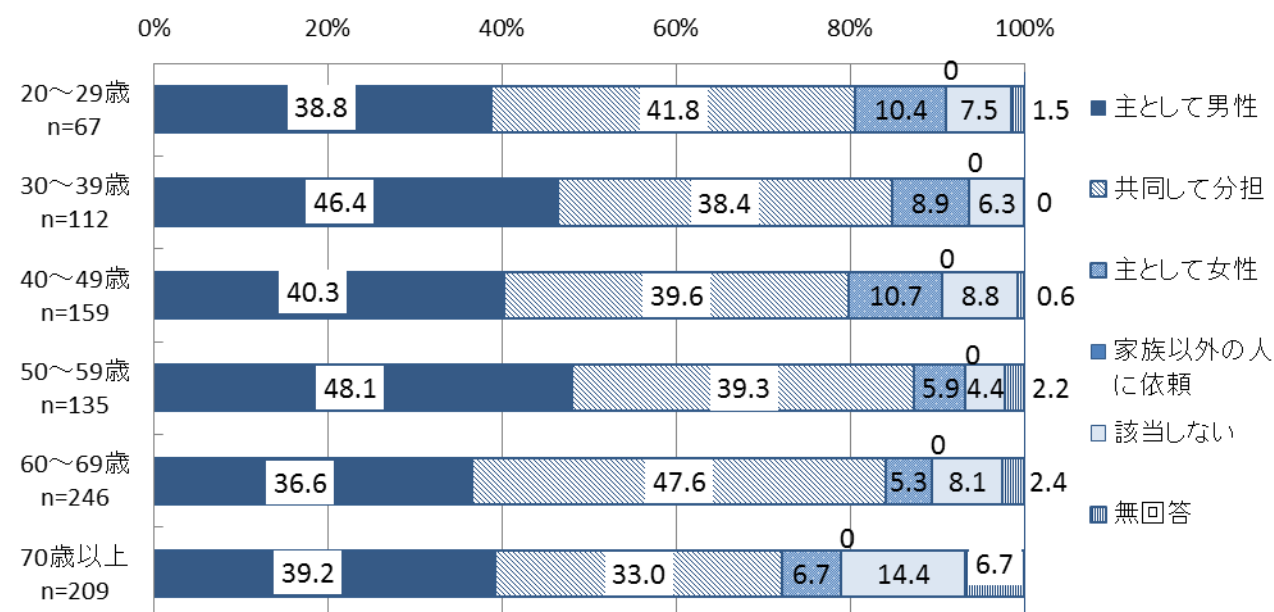
キ 家計の管理 年齢別



「家計の管理」では、「主として女性」とした割合が全ての年齢層で5割を超えています。20歳代から60歳代までは、「共同して分担」の割合も高くなっています。

Ⅲ－２ 家庭生活

ク 高額商品や土地建物の購入の決定〈年齢別〉



「高額商品や土地の購入の決定」では、「主として男性」とした割合が20歳代を除いた年齢層で高くなっています。また全ての年齢層で「共同して分担」の割合も高くなっています。

2－2 男性が家事等に参加するために必要なことについて

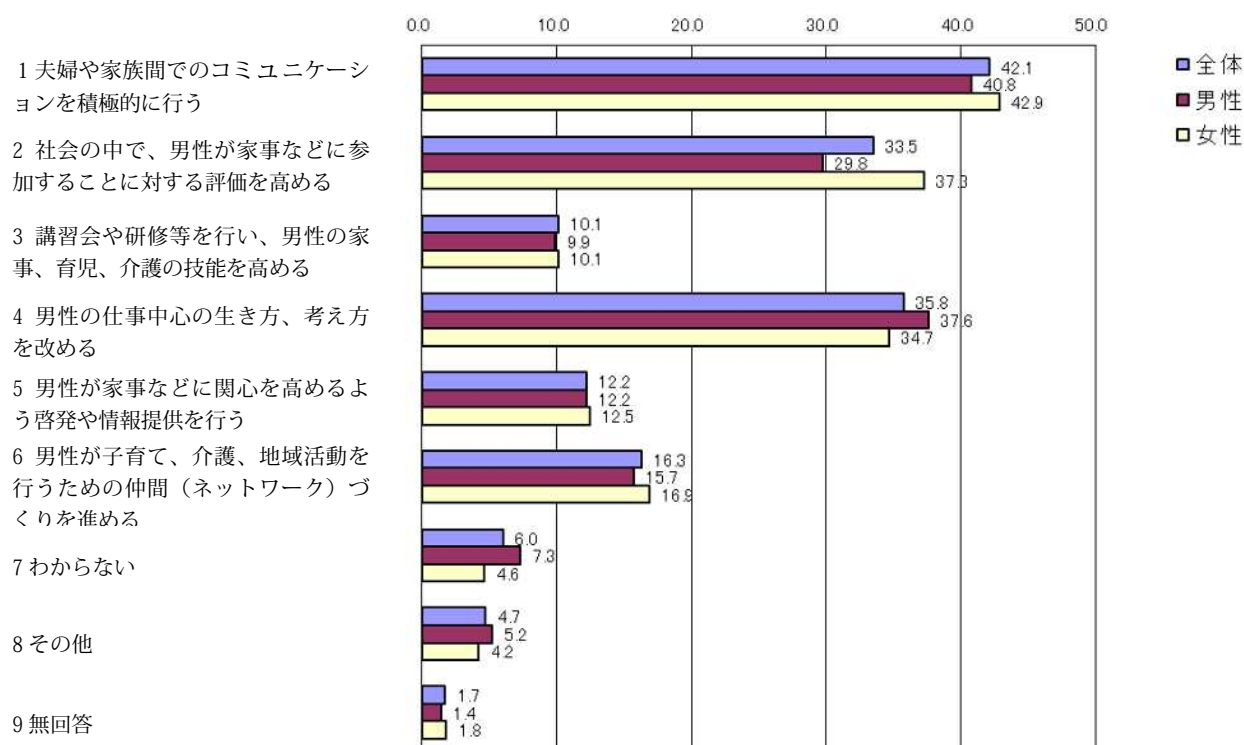
問5 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は2つ以内）

（人：％）

	全体		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う	395	42.1	174	40.8	216	42.9
2 社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める	315	33.5	127	29.8	188	37.3
3 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高める	95	10.1	42	9.9	51	10.1
4 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める	336	35.8	160	37.6	175	34.7
5 男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	115	12.2	52	12.2	63	12.5
6 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進める	153	16.3	67	15.7	85	16.9
7 わからない	56	6.0	31	7.3	23	4.6
8 その他	43	4.69	22	5.2	21	4.2
無回答	16	1.7	6	1.4	9	1.8

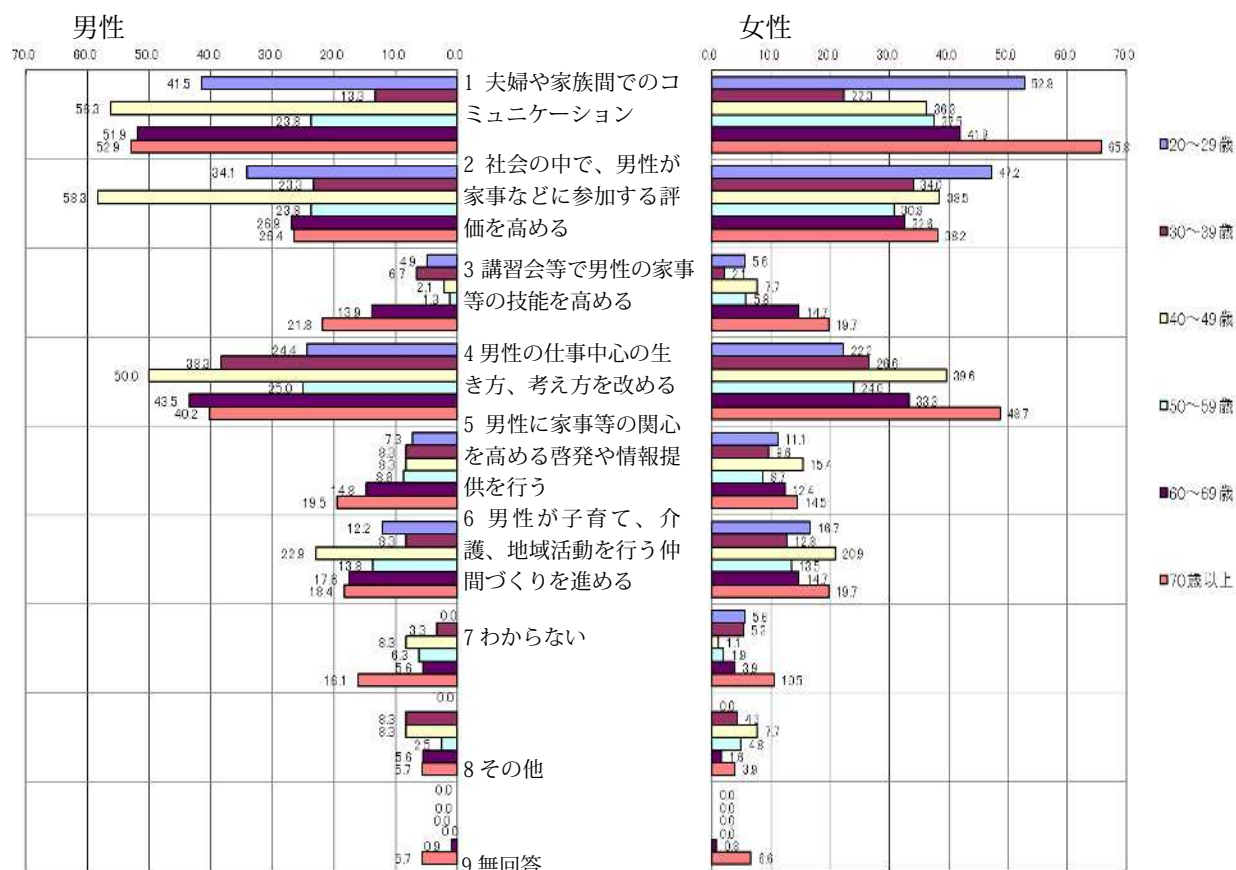
（全体N＝939 男性n＝426 女性n＝504）

全体・男女別



全体で、最も多い割合を占めたのは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う」(42.1%)であり、次いで「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」(35.8%)、「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」(33.5%)の順になっています。

〈男女別・年齢別〉



Ⅲ－２ 家庭生活

男女・年齢別でみると、男性では 20 歳代、60 歳以上で「夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う」とした割合が最も高くなっています。30 歳代は「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」、40 歳代では「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」とした割合が最も高くなっています。

女性では、30 歳代を除く他の年齢層で「夫婦や家族間でのコミュニケーションを積極的に行う」とした割合が最も高くなっています。30 歳代では「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」とした割合が最も高くなっています。